

プレス空知 2020年8月 深井尚子 「旅するピアニスト」

お盆も過ぎ、秋の気配が漂ってきましたね。今日は、夏の終わりの少し怖いお話をしたいと思います。私は、ロンドンにも2年ほど滞在したことは以前にお話をしました。イギリスは、島国なので、日本に似た気質があると感じました。イギリス人は、謙譲を重んじる国民で、ジェントルマン（紳士）はあまり、自分のことを自慢しないなどの気質があります。明治政府が日本の新しい国造りのお手本としたのがイギリスでしたので、車は左、人は右、また、ポストが赤いなどが日本とよく似ています。ちなみにヨーロッパ大陸では、ポストは黄色で、ご存じの通り、車は右、人は左です。

日本でも暑い夏には怪談で涼を得ようと、夏のキャンプで、肝だめしなどをしますが、イギリスは、夏に限らず、怪談話が多いところです。まず、ロンドンの中心部にある、ロンドン塔です。ロンドン塔は、なんと、1086年に完成した中世の要塞で、歴史的にもたくさんの逸話を持つ世界文化遺産です。16世紀のイングランド王、ヘンリー8世は、妻をさまざま理由をつけて、このロンドン塔で3人の正妻を処刑しました。そこに関連した人物もやはりロンドン塔で処刑され、そのころから、ロンドン塔には、亡霊が今もさまよっているといわれています。現在もイギリス王室の管理下にあり、そこには、数羽の大きなワタリカラスが飼育されています。カラスがそこにいる理由もコワイのですが、ロンドン塔に災いが起きないように、17世紀から飼われているようです。また、ハンプシャー・コート宮殿でも、冤罪で処刑された宮廷関係の幽霊も出ることで有名です。中世からの因縁ですので、400年も恨みが晴れないということでしょうか（書きつつ怖くなりました）。

イギリスには、その人物そっくりの蠟人形館、マダム・タッソー館もあり、亡くなった人たちがまるで生きているようにそっくりな蠟人形が展示されています。蠟人形作家タッソー夫人が創設したもので、19世紀に造られたそうです。こちらは、ホラー的ではありませんが、中に入ると何となく少しゾッとします。ちなみに、日本の元首相吉田茂も和服姿で展示されています。

ロンドン郊外の、ストーンヘンジという巨大な石の建造物があり、これも世界文化遺産として有名です。巨大な石が柱と屋根のように積まれていて、紀元前2600年ころから何らかの目的で作られたものです。北東-南西に建てられており、夏至の朝は、太陽が、ストーンヘンジの中央の隙間から見られるなど、古代天文学の理論が見受けられるなど、ここは、一種のパワースポットになっているようです。

このようにロンドンをはじめイギリス各地には、不思議でちょっと怖い場所がたくさんあります。ロンドン留学中にそれらの場所に行きましたが、私は靈感が全くないため（笑）、怖いものは幸いにも見たことはありません。ロンドンは、いつも霧がかかっている暗い天気が多く、雨も多いことから、さらに怖くなるのかもしれませんが。

北海道は、もう、暑い夏は過ぎていくころですので、8月のうちに、ロンドンの怖いお話をしました。